学校番号	３１８

令和８年度　芸術科［書道］

教科	芸術	科目	書道Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	書道Ⅰ　（東京書籍）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・小学校、中学校の書写の授業で学んだことを発展させて用具・用材の違いによる表現の違いなどを学びましょう。
・集中して根気よく練習を繰り返し、筆の機能を生かせるようになりましょう。
・作品に押す姓名印や身近に飾れる作品も作ります。自己表現の一つとして書に親しみましょう。

2　学習の到達目標

（ａ）書写能力の向上及び書の表現方法や多様性についての知識と基礎的な技能を習得する。
（ｂ）表現と鑑賞の能力の向上及び書の伝統と文化について理解し、書の美を味わうことができる。
（ｃ）主体的な活動を通して書に親しみ、理解と感性を高め、生涯にわたり書を愛好する心情を育む文化的で心豊かな生活や社会を創造する人間としての態度と、個々の自己表現力や生きる力を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけるようにする。	書の良さや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味・価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	書写から書道へ	・書写の確認(書の導入) ・用具、用材 ・姿勢、執筆法	a:表現の方法・形式、多様性などについて理解し、効果的に表現するための基礎的な技能を身につける。 b:書の良さや美しさを感受し、手書きの伝統や価値について考える。 c:用具・用材の扱いや姿勢・執筆法についての学習に主体的に取り組む。	提出作品	レポート	実技態度の観察
	漢字かな混じりの書	・漢字とかなの調和、用具・用材による表現 ・紙面構成 ・生活の中の書(団扇・硬筆)	a:書写能力の向上、効果的に表現するための方法・形式を理解し、基礎的な技能を身につける。 b:意図に基づいて構想し、表現を工夫する。 c:書の伝統と文化に親しみ、作品制作に主体的に取り組む。	提出作品	提出作品 レポート	実技態度の観察
2学期	篆刻	・用具・用材、手順、書体(篆書) ・自作品に押す姓名印の制作	a:篆刻についての基礎的な技能を身につける。 b:刻された文字の美しさを感受し、篆書の姿や配置が美しく見えるように工夫する。 c:手順に沿い、草稿の段階から仕上げまで意欲的に取り組む。	提出作品	レポート	実技態度の観察
	漢字の書	・楷書 ・行書 ・画仙紙の作品制作 ・生活の中の書(色紙作品の台紙飾り)	a:楷書と行書の違いを理解し、それぞれの用筆、字形などの知識を生かし、意図に基づき表現できる技能を身につける。 b:作品や古典などの鑑賞により、書の良さや美しさを感受し、伝統文化としての書の価値を考える。 c:用具・用材の特徴を生かし、効果的に表現しようと工夫し、意欲的に取り組む。	提出作品	レポート	実技態度の観察

3学期	かなの書	・成立 ・用具、用材 ・用筆法 ・単体(いろはうた)	a:かなの書の成立や用具・用材、用筆法について理解し、伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につける。 b:作品や古典などの鑑賞により、用材の料紙も含めて、かなの書の美しさを味わう。 c:かなの歴史に関心を持ち、用具・用材の特徴を理解しようと主体的に活動する。	提出作品 レポート	提出作品 レポート	実技態度の観察
	かなの書	・連綿 ・散らし書き ・色紙作品	a:伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を生かし、意図に基づく作品制作へと発展させる。 b:作品や古典などの鑑賞により、かなの美を味わうとともに日本の伝統文化としての書の意味や価値を考える。 c:日本文化にたいして関心を持ち、用具・用材の特徴を生かして作品制作に主体的に取り組む。	提出作品	レポート	提出作品 実技態度の観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度